

「2017年改訂版RC耐震診断基準対応プログラム」

「BUILD.耐診RC」 と2017年改訂版耐震診断基準

株式会社 構造ソフト

新基準で結果がどれくらい変わるのか

- 主な変更点
 - 袖壁付柱の評価(曲げ、せん断、F値)
 - 形状指標の評価(割線剛性、A法、B法)
- どんな建物が影響を受けるのか

1

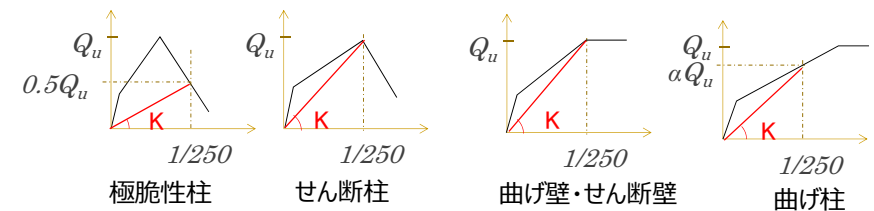
新基準で結果がどれくらい変わるのか

- 袖壁付柱の評価
 - 極脆性の袖壁付柱(CWSS)が多い
 - 片側袖壁が取り付く柱が多い
 - 長い袖壁が取り付く柱
- 形状指標の評価
 - 補強ブレースが多く配置されている
 - 正負加力で耐力が大きく変わる物件

2

形状指標の変更点 ■ 弾性剛性から割線剛性に

- 診断基準の剛心の求め方
 - 旧基準:断面積とプロポーションから(弾性剛性)
 - 新基準:F=1.0のときのせん断力から(割線剛性)



8